

# 首都圏6〜7万戸に

## 民間予測 建築費下落で大幅増

マンションの着工  
今年

マンション関連コンサルティングのトータルブレイン(東京・港、久光龍彦社長)は、2010

年の首都圏のマンション着工戸数が6万〜7万戸になるとの予測をまとめた。約4万戸だった09年

から大幅に増える。新規発売戸数は09年比3割増の4万8000戸程度を予想。建築費の下落など

を受け、マンション開発業者が徐々に供給を積極化するという。

国土交通省によると、09年の首都圏のマンション着工戸数は4万41戸と08年より6割減った。相次ぐ経営破綻などでマンション開発業者の数は減少したが、建築費の下落や資金調達環境の改善などで物件を開発しやすくなるとトータルブレイン

は見ている。

資金回収がしやすい低層の物件を供給する動きが広がり、10年に着工する物件の4割程度は年内の発売になると予測する。08〜09年に着工して供給を手控えていた物件も発売しやすい環境になっていると見て、不動産経済研究所の見通しなどより供給が回復すると判断した。